



京都大学

設置期間 2021年4月1日～2024年3月31日

寄附者 一般社団法人アートをコアとしたコミュニケーションデザイン大学コンソーシアム

「アートとコミュニケーションデザインの知見を、あらゆる組織経営に応用する」



アート・コミュニケーションデザインと組織経営

教員紹介



山内裕 教授

専門分野

計画理論、意思決定支援、
ゲーミングシミュレーション

担当科目

情報システム・オペレーションズ、統計分析、
ビジネスリーダーワークショップ ほか

Message

理論や知識だけで、社会の問題を解決することは出来ません。しかし、理論や知識を持たずに問題を理解し、分析し、そして解決することも出来ません。基礎となる理論や知識を修得することが、問題解決能力を身に付ける近道です。



蓮行 特定准教授

専門分野

組織論、サービス、エスノグラフィ、
エスノメソドロジー、デザイン

担当科目

組織文化論、組織・コミュニティデザイン論、
サービス経営学 ほか

Message

サービスに関する研究をしています。サービス現場を観察し分析（特にビデオカメラを使って相互行為を分析します）、サービスについての理論構築、サービスデザインの方法論開発を行なっています。江戸前鮎、京都の料理屋、さらにはファストフードやイタリアン、クリーニング屋、医療サービスを対象にして分析しています。



末長英里子 特定助教

専門分野

アート、演劇、コミュニケーションデザイン、
アクティブラーニング

Message

プロの舞台演劇の演出家として 30 年近いキャリアを積んでいます。演劇の知見は極めて有用で、古代から現代まで世界的に活用されています。日本ではマイナーな位置付けですが、VUCA の時代と呼ばれる現代において、演劇をはじめとするアートの知見には、一層注目が集まると予想します。当講座の研究・実践を通じて、演劇を社会に再インストールします。



山内裕 教授

専門分野

ワークショップデザイン、コミュニケーションデザイン、
演劇教育

Message

私自身は俳優や演出家というアーティストではありませんが、演劇を教育研修に応用する仕事に携わっています。演劇やアートの活動は、一見「遊び」のようにも見えますが、そこから得られる経験は貴重です。当講座の活動を通じて、演劇やアートの応用について実践と研究を深めていきます。